活 動 概 要

下関市立小串小学校育友会
会長　　西　本　裕　喜

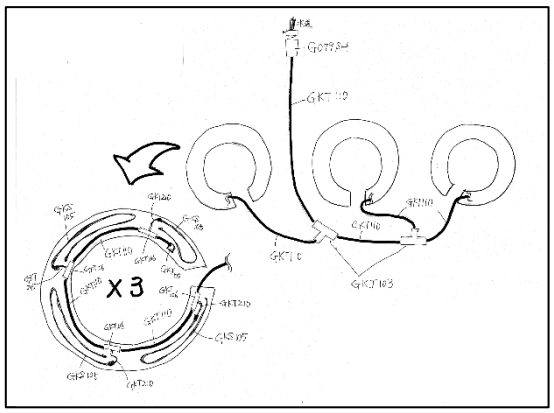
１　はじめに

2016 年に山口県指定準絶滅危惧種であるヤマグチサンショウウオが小串地区で発見され地域に保存会が立ち上がった。また、2017 年から自然環境教育の一環として、小串小学校でヤマグチサンショウウオの飼育・観察を行うようになり、育てたサンショウウオを自然に放つ活動を行っている。児童にとって、小串地域の自然環境を守ること、また、命の尊さを学ぶよい学びの機会となっている。

しかし、2023 年度、児童数が減り、学級数が減るということに直面し、さまざまな課題が学校に生じている。その１つが、サンショウウオの飼育と学校の花壇や菜園の活動との両立である。児童数の割に校地面積・花壇菜園の面積の広い本校である。花や植物を育てる活動も、サンショウウオの飼育とともに、自然環境、命の大切さを学ぶ良い機会であると考え取り組んできた。ところが児童数減により、水やりの最適な時間帯とサンショウウオのエサヤリの最適な時間帯とがどうしても重なるなど、その両立について子どもたちが悩むこととなってしまっている。

そこで、この物理的な問題について環境を整えてやるのは、子どもたちでなく大人の責任であり、命が大切であるからこそ、大人も真剣に考え行動したという姿を示したいと考え、助成事業に応募したのである。

２　灌水設備の計画



助成金を頂けることとなり助成額が決定したので、その予算の中でどこまでの設備を整えることができるか計画を立てた。（図１）

残念ながら、助成金を申請した際の最初の計画段階では、本校にあるバスケットコート横にある円形の花壇６つ分の灌水設備を整えるつもりであったが、助成額により半分の３つ分の花壇について灌水設備を整える計画に縮小することにした。

３　灌水設備の設置作業

育友会に声を掛け、有志による設置作業を行った。

本校校長が、前任校で設置したことがあり、その助言によりスムーズに作業をすすめることができた。

４　成果について

バスケットコート横の花壇（６つ）の内、半分の３つの花壇をについて、蛇口をひねり３０分～1 時間置いておけばバランスよく水が供給されるという仕組みを完成させた。

「蛇口をひねって散水をしている間に、他の場所の水やりをしたり、サンショウウオの餌をやったりということができるようになったので、児童の朝の時間に余裕ができた。」また、夏休み中に、ホースをつなぐ作業を行ったので、「夏休みの当番の先生が炎天下１人でやっていた水やりやエサやりが、例年よりも短時間に行うことができ働き改革にもつながった」という感謝の言葉をもらった。、

５　今後の課題について

まず、残り半分（３つ）の花壇の灌水設備の完成を目指していきたい。

また、蛇口をひねっている散水作業を行っている間、別の作業を進めるという仕組みにしたことにより、児童が蛇口の閉め忘れをしてしまうという新たな問題が生じてしまったということを聞いた。最初の計画では、タイマー設備も考えていたが、予算の都合上その導入を見合わせた経緯がある。来年度以降、タイマーの購入も視野に入れたい。

児童数の減少は育友会組織の縮小も意味している。実際問題、育友会としてやってきた活動をこれまでと同じ形で行うということが難しくなるなどの問題を抱えるようになっている。しかし、学校や児童の活動を支えることのできる育友会として、先輩たちが築いてこられた様々な活動を様々な工夫によって継続・維持していくとともに、出来得る限りの人的物的支援を行い支援していきたい。その１つの在り方として、外部組織が運用する助成金を申請して得ることで、育友会としてできることを増やすことができたこの度の新しい挑戦は意味があったと感じている。